

定例研究会要旨

日時：平成 30（2018）年 7 月 18 日 18:00～20:00

会場：東京外国語大学 語学研究所

「通時音声コーパスの可能性：『昭和話し言葉コーパス』の構築と分析」

‘Diachronic Speech Corpus: Construction and Analysis of *Showa Speech Corpus*’

発表者：丸山岳彦（専修大学文学部准教授・国立国語研究所客員教員 / コーパス日本語学）

MARUYAMA Takehiko

本発表では、「通時音声コーパス」が話し言葉の分析に対して持つ可能性について論じた。現在までに世界中でさまざまな種類のコーパスが構築されてきているが、今後のコーパス開発の一つの方向として、「通時音声コーパス」が考えられる。実際に録音された音声資料を時代ごとに並べ、時代ごとの音声的・文法的特徴を分析・比較することによって、話し言葉の経年変化をコーパスに基づいて記述しようとする研究である。

発表では、コーパス言語学の定義や話し言葉コーパスの構築方法について確認した後、録音資料の歴史や先行研究について概観し、筆者らが現在構築を進めている「昭和話し言葉コーパス」の設計・実装方法について説明した。これは、1950年代から1970年代の間に、当時の国立国語研究所で収集された独話・会話の録音資料をコーパス化しようとする試みである。イントネーションの変化、文法形式の変化についてパイロットスタディの結果を示したうえで、今後の課題と将来的な展望について論じた。